

まんさく

第319号

社会福祉法人 光寿会
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
題字 元理事長 太田 祖 電



POTT外部講師(柿澤良江師)による事故防止研修 ～11月15日～

ベッド上や車いすでの適切なポジショニングを作る事で食べる喜びを引き出すための講習会。岩手医大の柿澤先生と西和賀さわうち病院のスタッフ様にご来苑賜り、濃い中身の体感講習となりました♪

319号『まんさく』もくじ

☆2頁★

- *碧祥寺報恩講参拝
- *光寿苑報恩講勤修

☆3頁★

- *災害を捉える

☆4頁★

- *地域密着型事業
- *寄贈・面会・外出等

☆5頁★

- *元気です!家族会♪
- *介護の魅力を伝える介護劇 in 西和賀高校

☆6頁★

- *「光寿会の日々」(4コマ漫画)
- *「自然法爾」(おきさんのお話) *「おわりに」

光寿会では、事務系・介護系・調理系・洗濯掃除の職員を募集中です♪

碧祥寺報恩講参拝 11月9日

3名のお年寄りが参拝した碧祥寺報恩講。迫力のお勤めと、大谷中学・高校の乾文雄
学校長の実生活を通した仏教のお話を賜りました。その後は御斎(食事)を頂きました。



丁寧なお話の中に熱いものを感じた乾節！

今年も親鸞聖人の仏教に出会う場である報恩講を光寿苑のお年寄りたちと一緒に勤めました。宗派も其々違う皆さんですが、手を合わせる尊き姿は共通のものであります。

光寿苑報恩講勤修

11月26日



想...

災害を捉える 石川県七尾市から発信⑫

『能登から被災地だより⑫』竹原了珠 氏



今回は『未来は過去からやってくる』という仏教観に立ち探求されております。

今日は金曜日。明日と明後日は休日。それだけで心が軽くなります。と言っても、土日は門徒さんの法事が入っているから、本当は休みではないんですけれどね。でも心は軽やかけれど、日曜の夜には、心はどんなにしているでしょう。あああ、明日は仕事がある。職場に何も問題ないのですが、月曜日と思うだけで気が滅入ります。

こういう風に、未来はやってきている。では、未来はどこからやってくるんでしょう？

実は仏教では、未来は過去からやってくる。と解釈します。過去の経験から未来を予想し、予想した未来を、今の私がきつとそうにちがいない。と本当の未来のように思い込む。つまり、未来を思う事は、過去の記憶の積み重ねの投影を見ている事になるのです。

先日テレビで、能登のあるお寺の住職がインタビューを受けていました。本堂が被災して修復するのに数億円必要だと。門徒も被災しており、工事を捻出する事ができないので、お寺を解散する決断をしたとの事でした。このご住職は、本堂を修復できない。たらお寺の未来は関

ざされると思われたのかも知れませんが、でも、私が同じ立場なら、こう考えます。

「本堂を公費解体して庫裡で礼拝施設を整えれば、本堂の毎年の莫大な管理費が浮いて、長期的な活動ができる。ヤッター！」

そう考えて、むしろ「未来は明るい」と思うはずですが。

また他のご住職は、この集落で人は住めないから、お寺を続けるのはもう無理だ、廃業だ。と憔悴してうなだれていました。そのご住職に、坊主さんは町に住みたいって言ってましたよね。門徒さんも市内の仮設住宅に居るから、街中の一軒家を購入して、ご本尊を安置したらいいやないですか？

と伝えると、キョトンとした顔を上げて、え？それでもいいのか！と仰り、今は夫婦共に円満です。

しっかりとした本堂でなければならぬ。なんていう決まりはない。お寺だからと言って、引越しがメな事もない。未来と格闘しているように、実は「過去の考え」と格闘しているのです。勿論、過去の経験則や思考で、未来も間違いない生きていけるのなら問題は無い。

でも本堂のところに、未来は完全にフロンティア。子どもも大人も、今日とは初めての経験です。過去からの想像では見えないのが本堂の未来のだけれど、それをウキウキできるか、それともガクリうなだれるか。人間が手に入れられるのは、未来そのものではない。未来をどう迎えるかだけなのです。

いっかお寺の維持が難しくなる時代がきたら、どうなっていくのか？そう思って、先日は東京へ行き、お総菜屋さんの小さな建物をそのまま利用しているお寺の見学をしました。さらに、管理できなくなったお寺でどうなるんだろうと考え、巨大な木造建築の崩れ方をあちこち捜し回りました。乗っとりれたお寺ってどうなるんだろう？法務局へ行行ってその寺の登記を見て、ううわ、こみやべえ」と聞世界に思いを馳せたり。

そこまで辿っても、本当の未来は分かりはしないけれど、未来をどう迎えるかの自由は私の手の中にある。そのためには、私の未来を予想する過去が一変する様な知見を、どんなに己の体におち込み続けるしかない。それが未来への恐怖や諦めにならないための、唯一の方法だと考えます。

続

今月の登録者の方々

15名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

いよいよ雪の季節を迎えます！「ひなたぼっこの日常」



右 お茶会『レクリエーション』
左 お茶会『ブチ英会話教室』

第4回「運営推進会議」(11月12日)

※外部委員9名、職員3名出席
、外部評価の日中視察の回
①週に何回利用するのかわを決めるのは本人？家族？
②本人と家族と事業所の三者間での要相談で決まります。
③金曜日の利用が集中しているが、他の曜日への分散は？
④利用者の相性や曜日の希望等加味しているため分散は難しい。湖畔の宿の入居者の利用日も調整する対応はしています。
⑤他の施設へ行った方が数多いとの事。その理由や見極めのポイントとは？
⑥例えば自宅で転んでけがをして入院。状態変化に伴い、家族や家で見るのは難しいという判断となり、入居者のサービスに変える流れが多いです。
⑦ひなたぼっこでの看取りも検討するように国では言われるが、人員体制と医療との連携や整わず、今は難しい現状です。
⑧お茶会が活発ですが、職員は19年開所時から継続中。ひなたぼっこを体験頂く事で、彼のサービス利用に繋がります。

おかげさまでした

★11光寿苑 ☆11ひなたぼっこ、湖畔の宿

寄贈

面会・外出

★ 匿名 様 [西和賀町]
★ 高橋 修 様 [下ノ沢]
☆ 高橋 幸夫 様 [下 前]
☆ 高橋 康文 様 [新 町]
☆ 高橋 ちづ子 様 [下 前]
☆ 佐々木 正 様 [北上市]
☆ 石川 彰 様 [盛岡市]
☆ 高橋 智也 様 [埼玉県]

〔11月1日〕

【対面会】

★ 延べ105名(対象入居者29名)
☆ 延べ33名(対象入居者6名)

【自宅外出・外泊】

★ 延べ12名(外出)、☆ 1名(外泊)

寄附

友愛訪問等

★ 匿名 様 [西和賀町]

【11月1日、15日 機能訓練ボランティア】

★ 伊藤敦史 先生 [秋田県]

【11月15日 POTT講習会】

★ 柿澤良江 先生 (岩手医大)

★ 西和賀さわうち病院
… 歯科長様他2名

【11月12日 外部評価日中視察】

☆ 運営推進会議外部委員 様 … 9名

【11月16日 お茶会『英会話 等』】

☆ 講師・エリック 様
☆ お茶会登録の皆様 … 12名

光寿会への支援

第127回

127回目は、去る11月21日、気仙沼大島の亀山荘へ日帰りで行って参りました家族会旅行の様子を…ちょっとだけよ～♡



元気です！家族会♪

介護の魅力を伝える介護劇 in 西和賀高校



12月1日の午後、今年も西和賀高校1年生を対象に、介護・福祉の魅力を伝えたくて、町内福祉事業所の今年度の選抜職員さんと町の職員さんとで実話に基づいた劇を披露して来ました♪
我が光寿苑からも3名の職員が参加。方言満載のセリフでしたが、生徒さん、とても良く笑って観て下さいました。

劇終了後は、生徒さんから職員への質問コーナーへ！急に聴かれた内容にも、丁寧に応えたメンバー。姿勢が素敵っす♡

そ、そっかあ…それを先生に聴いてみたんだよね？
先生、何て言うてたの？

オレよお、余命いくばくも無えんだよ…。最後にタバコの一本も吸ってみでえもんだな…って思ってた。



319号 光の寿々々



イラスト：1000

お年寄りあるあるという、相手の変われば、場所が変われば真逆のことをおっしゃるなんて事は時折出会うものである。思わず笑ってしまうようなこの状況。むしろお年寄りたちから自然と笑えるような時間を賜っているのだと思うのだ。

ああ、自然よ、父よ 僕を一人立ちにさせた広大な父よ

高村光太郎

第118回 丸田善明

自然法爾

(じねんほうに)

自坊の報恩講の講師として来てくれた遠来の友を花巻の温泉宿でもてなし、近くには建つ高村記念館で光太郎の作品を鑑賞した。

敗戦後、戦争責任を自覚して自らを流罪に処し、新年を、独り、雪深い林間の山小屋で迎えた詩人は、父・光雲を思う。

東京大空襲を逃れ、八月には疎開した花巻でも空襲に遭った。今、ここには、ついこの前まで当たり前のように聞こえていたラジオの音もない。

この山小屋にあるものは、圍炉裏で燃えあがる薪の弾ける音。積もった雪が枝から落ち

山小屋を襲う風雪の音の中に、父の激励の声を聞いた事を思い出した。

光雲は名声を得た人だった。しかし僕は、一切の栄誉を離れ、山林孤棲の日々をこの山里に送ろうとしている。その息子に父はこう言った。
「それでよい。光り輝く風景の中に踏み込んでゆけ。やがて、おまえの後ろに道は出来るだろう。」
ふと思っ。父は今秋、十三回忌を迎えるのだな。

おわりに

元学校の先生が仰った。

「私が教師だった頃、授業の準備や間に合わず、黒板に書き加えていくことが多かった。直訳だとして目撃大工の様な事。今の教育現場は、専門的な道具や資料を使って最もらしく授業をする事が主流で、それや評価の対象となる。でもそれでは、人間力は育ちにくいし、個性もない子どもにとって心に残る授業と言えぬのかな？。と思う。心がゆれ動くような授業、これが人間力を育てるのに、現代は危機管理や結果主義優先で、似たようなものはハリになっていて。悲しい。」
この世界もハリコラを失っている。

※あり合わせの材料を使って、工夫しながら何かを作り上げること(フランク語)